



大阪市立大学
工学部同窓会

同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3-3-138

TEL 06 (6607) 8 3 7 3

FAX 06 (6605) 2 7 6 9

発行人 田守 芳勝



森 幹雄 作

《 目 次 》

| | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 表紙絵「泉勇之介商店」…………… 1 | 学科の近況・会員短信（知的材料学科）…12～13 |
| 田守会長・濱名誉会長の挨拶…………… 2 | 〃 （環境都市工学科）……………13 |
| 平成19年定年恩師の寄稿…………… 3 | 学友会からのお願い・新住所……………13 |
| 学科の近況・会員短信（機械工学科）……………4～5 | 平成19年工学部卒業生名簿……………14 |
| 〃 （電気工学科）……………5～6 | 〃 工学研究科修了生名簿……………15 |
| 〃 （応用化学科）……………6～7 | 〃 工学部入学生名簿……………16～17 |
| 〃 （建築学科）……………7～8 | 〃 工学研究科入学生名簿……………17 |
| 〃 （都市基盤工学科）…8～9 | 工学部同窓会事務局年報……………18 |
| 〃 （応用物理学科）… 9～10 | 平成20年評議員会案内・工学部電話番号・後記……………19 |
| 〃 （情報工学科）……………11 | “ 〃 工学部同窓会の集い ” の案内……………20 |
| 〃 （バイオ工学科）…11～12 | |

ごあいさつ

会長 田守 芳勝



本年2月の評議員会にて貴志会長の後を受け、会長に選任されました昭和38年応用物理学科を卒業いたしました田守芳勝です。この大役を果たすことが出来るのかいささか不安がありますが、微力ながらがんばりたいと思っております。

昭和38年に大学を卒業して約45年、世の中も変わり、大学も大きく変わろうとしています。

社会の平均学歴はワンランク上がったがその能力はいかでしょうか。コンピュータゲームやパソコンを相手に育ち、親離れの出来ない子供、子離れできない親たちの中で育った子供らは果たしてうまく社会を創っていきけるのだろうか。いろんな人と協調し、人に手助けを頼んだり、手助けをしたりする術を知っているのだろうか。

われわれが学生のころや、会社人間といわれたころにやっていたことが全て良いなど言うつもりは毛頭無いが、誰にも相互扶助の気持ちがあった。期末テストなどでは随分と回りの人たちの手助けを受けたものだ。中には周りの人たちの答案用紙の良い所だけを集めクラスでただ一人90点を取ったなどという猛者もいたが、助けたり助けられたりしたものだ。それでも単位のもらえないときは一升瓶を下げて生駒の麓の先生のお宅を訪ね追試験のお願いに行ったものだ。

私もいろいろな大学で客員教授や非常勤講師をさせてもらい、不合格にした学生も数多くあったが、単位をくださいなど言いに来た学生は皆無であった。頼みに行かなくても良い状況にあるのかもしれないが頼みに行くなど思いもつかないのかもしれない。ベンチャー企業がもてはやされ、若手の起業家が脚光を浴びているが、何か不安がよぎってならない。先人の知恵を借りたり、友人と相談することなく独りよがりな考えで突っ走り社会問題になっているのではなからうか。学生時代にもっと共同作業をし、友達を作る機会を経験させてやるべきではなからうか。人と付き合う術を経験すべきではなからうか。教育や研究は大学にお任せするとして、同窓会では市大の卒業生たちがよき社会人として活躍できるような何か手助けできないものかと思っている。

(応物・昭和38年卒)

ごあいさつ

名誉会長 濱 裕光



今年は夏から秋を飛ばして急に初冬になり、肌寒い毎日が続いています。工学部同窓会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。

本学は、公立大学法人大阪市立大学として新しく生れ変わり、今年度で2年目を迎えますが、未整備の点や慣れない点

が多くあり、その対応に大わらわです。法人の経営は大阪市からの運営交付金と授業料収入、外部資金(科学研究費補助金・受託研究など)を原資として行われます。ご存知のように大阪市の財政事情はたいへん厳しく、今までに経験したことのない緊縮財政、人員削減の荒波にさらされています。このような中で、気持ちだけはシュリンクさせずに、未来に希望を持って、組織の活性化に取り組んでいるところです。また、現理事長(学長)の任期は今年度末までで、現在、理事長選考委員会が発足し、第一次、第二次意向投票が行われています。

様々な分野でグローバル化が進行するなか、「日本技術者教育認定機構(JABEE)」受審に関して、本学工学部ですでに8学科が申請・認定されています。機械、土木(現都市基盤)の2学科に引き続き、今年は電気、応化、建築、応物、知的材料、環境都市の6学科が中間審査を受け、無事終了のご報告いたします。認定学科の卒業生は技術士の一次試験が免除されます。進路に関してですが、ここ数年は景気が回復しており、求人にも明るい兆しが見えてきています。多くの企業から人事担当者やOBが大学を訪れ、優秀な学生の獲得に向けて熱心な会社説明が行われました。ついこの間の就職氷河期が嘘のようです。学部卒業生の7割程度は大学院に進学しますが、後期博士課程への進学者が少ないのが悩みの種です。会社に勤めながら博士号を取得できるように様々な工夫をしております。入学は春、秋の年二回で、条件さえ揃えば、最短1年間の在学期間で博士号の取得が可能です。卒業生の皆様の中で、我こそはと思わん方は是非ご相談下さい。

末筆ながら、工学部同窓会員の皆様方の益々のご活躍、ご健康をお祈りします。

(工学研究科長兼工学部長・工学研究科教授)

表紙絵作者の略歴

1951年：大阪市都島区生まれ、
1973年：大阪市立大学 工学部建築学科卒業・
(株)石本建築事務所入社
1990年：(株)MANプランニングオフィス設立
1997年：森幹雄 建築工房設立
2002年：武庫川女子大学生活環境学科助教授就任・現在に至る

表紙絵の原画

表紙絵の題名は「泉勇之介商店」。この商店は灘五郷の御影郷にある純木造の酒蔵で、阪神大震災で倒壊後いち早く復興された。(阪神石屋川駅から南約8分の石屋川河口脇に佇む)

今になって味わう『ものづくり』の楽しさ

東 恒雄



根が挑戦好きで無鉄砲だからか、未経験な場で活動してみようと第2の人生を歩みはじめた。

5月の連休明けから、プラスチック射出成形を主な業務にする小規模な会社「品質管理補助」兼「技術アドバイザー」のパートタイマーとしてお世話

になった。その頃に「囲む会」や「慰労会」を開いてくれた卒研OBたちの「先生に勤まるかな」との心配には「大丈夫、なんとかなるやろ」と空威張りで応えておいた。

6月の上旬、社長さんから海外関連会社における円板状成形品の生産状態を視察して問題点を指摘してほしいと云われ、1週間出張した。折角の成形品が、発注元の変形に対する要求基準からほんの少しはずれているという理由だけで少なからず廃棄されているのが目にとまった。そこで簡単な変形矯正用治具を考案して7月上旬に再度出張した。今度は、成形品の回転不釣合いが精度よく測定できないため難しい数の出荷保留品が在庫しているのを知った。シンプルな検査によりバランスがとれていると判断できた成形品のみを出荷しているという。保留品の不釣合いが発注元の許容範囲にあることが判定できれば出荷することができる。

不釣合いは検査品を回転させて調べるのが一般的だが、対象とする成形品は薄い円板状であることに着目して、回転させずに不釣合いを検査する方法を思いついた。「力学」計算、機構や測定法の設計、製図、加工、組立、較正までの一切をほとんど一人で行った。もちろん、加工の難しいところは社内の経験豊かな方にアドバイスを頂いたし、加工が手に負えない部品は社外業者に発注した。こうして出来上がったバランス検査装置の外寸法は20cm×30cm×15cm、重さ13kg、部品点数は20余り。費用は外注加工費を含めて10万円弱であった。9月上旬に現地工場に持参して組み立て、作業員の方々に仕組みを説明したのち保留品のバランス検査に入った。内心はものすごく不安だったが、女性作業員の手際よい操作で保留品が次々と良品と不良品に分けられていくのを見て大いに感激した。後日、1昼夜で1000個の検査が可能との報告を受けた。

教員時代は流体力学が専門であったが、若い頃の実験装置の製作経験が大いに役立った。ほぼ20年ぶりの旋盤作業も実に楽しいものであった。企画から検査まで、少し大げさだが、ものづくりの醍醐味をはじめて味わった。

一区切りがついた10月末でお世話になった会社を一応、退社した。退社の挨拶に対し現地の技術者から、保留品のうちバランス検査をクリアした約1万個の成形品を先日出荷したと書き添えた返信メールをいただいた。

しばらく休息して、また新しい活動の場を探し始めようと思っている。(企業秘密や特許が絡むため具体的表現は差し控えた)。

(大阪市立大学名誉教授・元工学研究科教授)

市大工学部への思い

三浦 洋三



平成19年3月に定年退職して早7ヶ月経ちました。最後の数年は研究のおおよそのまとめやJABEE受審に向けての準備などであつという間に過ぎてしまいました。定年後は山登りや旅行、園芸などそれまでに出来なかったことに時間を費やす予定でしたので就職活動はしません

でした。ただ、依頼されて兵庫県立大学理学部で化学系の授業を行っています。また、最近技術顧問の話もありますがまだ態度を決めていません。

ところで、退職後自由な時間ができたため新聞などを入念に読むようになりました。新聞を読むときはいつも大阪市立大学に関する記事が載っていないか気になります。先生方の研究紹介記事が報道されていますと夢中になって読み、司法試験合格者数が報道されていますと順位が気になります。定年退職後市大への思いが一層強くなったように思われます。しかし、新聞等で市大に関する報道は以前に比べて少なくなっており、市大の存在感は徐々に薄くなっているように思われます。21世紀COEやグローバルCOEの採択件数を見ても個々の教員はよく活躍されていると思われるのですが、如何せん他大学と比べて大学の規模が小さいために世間に大学の存在をアピールする機会が少なく、市大は地味な大学だという印象が世間で定着してしまっているように思えます。存在感をアピールするためにマスコミをもっと上手に利用しても良いのではないのでしょうか。

大阪市の財政状態の悪化で市大の教育研究費や人件費の削減が行われ、教育研究環境の悪化が心配されています。特に、人員削減は助教ポストの削減に結びつき、また、かなりの期間にわたって公募人事ができない事態に陥っています。研究現場の活力を支えてきた助教ポストの削減や人材を広く求める機能の停止は理系研究科の活力低下という深刻な事態を招きかねません。学科再編を機会に、教育研究活動の高度化・拠点の形成を達成するために大胆な方策を立てる必要があるのではと思っています。末尾になりましたが市大の発展のために先生方の益々のご活躍を祈念いたします。

(元大学院工学研究科教授)

日本技術者教育認定機構 (JABEE) 認定

JABEE認定とは、国際的に通用する水準の技術者養成を実際に行っていることを認定する制度で、認定教育プログラムによる卒業生には修習技術者(技術士補)の資格が与えられ、技術士の一次試験が免除されます。

母校では、機械工学科、都市基盤工学科、電気工学科、応用化学科、建築学科、応用物理学科、知的材料工学科、環境都市工学科の教育プログラムが認定されています。

機械工学科の近況

川合 忠雄



卒業生の皆様にはご健勝にてご活躍のことと存じます。本学も昨年の4月1日から公立大学法人として再スタートし、1年半が経過しました。この間、事務的にはいろいろな変化がありましたが、教育・研究体制には大きな変化がなく、これまで通りの教育・研究を行うことができました。現在は、平成21年4月からの学科再編（機械工学科と知的材料工学科が統合されて機械工学科となる予定）に向けて、学科の特徴・特色を出すための議論を始めています。新機械工学科にもこれまで以上のご支援を賜りますようお願いいたします。

人事面では、3月末で東恒雄教授と野邑泰弘教授が定年退職されました。4月からは、機械力学分野に特任として杉山博之準教授が着任されました。

今年の新入生は29名でした。大学院では機械物理系専攻前期博士課程の入学者が42名で、後期博士課程の入（進）学者は4名（内、社会人特別選抜入学3名）でした。例年、後期博士課程への進学希望者が少なく苦慮しております。大学としても様々な工夫をしておりますが、卒業生の皆様の中で「博士になってステップアップ」とお考えの方は是非ご連絡下さい。卒業（修了）予定学生の進路ですが、学部4回生31名のうち大学院進学者が22名、企業等への就職内定者が7名、その他2名です。また、大学院の前期博士課程2回生40名は、企業等への就職希望者が40名で全員が早々に内定しております。今年も、様々な業種に分散し、自由応募で就職する学生が多いという特徴がありました。

大学は今後、善くも悪くも大きく変わります。この激動期に在り、卒業生の皆様には、これまでも増して一層のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

（工学研究科教授・機械物理系専攻長兼機械工学科主任教授）

近況報告

山上 俊



今年2月に、大学でご指導頂きました野邑先生の退官記念パーティに出席し、久しぶりに機械科の先輩、後輩とお話する機会をいただきました。起業した人、破産した人、激太りした人、教授になった人……。卒業後20年近くも経つとやはり男の顔には経験による渋みが出てくるもんだなあなどと、妙な感慨にひたってしまいました。（どんな顔や！）

私の方は肌の色つやこそかなり経年劣化しましたが、体重も髪の毛の量も、悲しいかな社会的地位も大して変わっておりません。よって先日会った皆さんのような貫禄もなく、会社では新入りにタメ口で話しかけられることがよくあります。（ああ、情けない。）

それでも一応、エンジニアとしてキャリアを年数だけ積んできましたので、その自負を強く持ちたいと思い、今年、技術士の資格をとりました。幸いにして私の場合、大学で学んだ機械と熱工学に入社後もずっと携わってこられました。試験は当然この部門を選択して受けたので、昔の教科書が大活躍。大学院の受験勉強が懐かしく思い出されました。少なくとも生協で買ったこの教科書代の方は、学校教育が私の中では役にたっていると感じています。（もっとあるやろ！）

市大の工学部は一昨年までに全学科がJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けたので、これからの卒業生は技術士一次試験が免除されるそうで。うらやましいですね。それ以前の卒業生の方もチャレンジするなら、脳内ハードディスクの空き容量が充分あるうちに一次は受けられることをおすすめします。チョイ悪オヤジには、「エントロピの定義」以外にも書き込みすべきファイルがたくさんありますので。

（機械・昭和62年卒・平成元年前期博士課程修了・大阪ガス（株））

平成元年度 機械工学科卒業生の同窓会

田中 基博



平成元年に市大工学部の機械工学科を卒業して早十数年、我ら同窓生はほぼ不惑を迎える年齢となりました。この度、同窓会事務局より原稿執筆依頼があったことをきっかけとして、長らく開催していなかった同窓会（実に今回でまだ2回目！）を開催することにいたしました。

もう一人の同窓会委員とともに、同窓会事務局より提供を受けた名簿を元に同窓生への連絡を開始しましたが、いかんせん長年連絡を取るのを怠っていたツケが廻ってきたのか、案内はがきを送っても宛先不在で戻ってきたり、電話をかけても繋がらなかったりと、所在不明の同窓生がかなり出てきました。



そのような状況の下、一昨年の年末に集まった12名の参加で無事同窓会を開催することができました。参加者のほとんどは関西近辺の勤務でしたが、帰省がてら出席してくれた者もいました。久しぶりに集まった面々は、あまり変わっていない者、見るからに老けた者、相変わらず独身でフラフラしている者（私もその一人ですが）、かつて大病を患った者など様々でした。会が始まった頃は懐かしさや少しの違和感

が勝っていたものの、いざ話し始めると徐々に大学生だった頃に戻ったような気分になり、年齢は重ねてもやはりいつもの仲間だと再認識いたしました。近況報告では、同窓生の各職場での活躍の様子が分かり、学生時分には無かった貫禄が（おなか周りの貫禄もですが）付いてきたように感じました。出席できなかった同窓生についても、海外外向している

とか転職したなどの近況情報も集まり、楽しく有意義な時間を過ごしました。

今後は数年に1回ぐらいのペースで同窓会を開こうという目標を立てて、この同窓会を散会いたしました。

（機械・平成元年卒・3年前期博士課程修了・大阪市立工業研究所）

電気工学科

電気工学科の近況

南 繁行



電気工学科同窓生の皆様にはお元気でご活躍のことと存じます。現在の教員スタッフは電磁気学（南、武智）、電子回路学（会田、高橋、重田）、材料計測学（草開、田中）、光電子工学（向井、宮崎）、電磁機器学（辻本、村治）です。昨年度末で青笹先生が定年で退職されました。

した。

電気工学科の社会への役割は変わることなく、就職は家電だけではなく、自動車関係、電気設備応用関係など幅広い分野に広がっています。学部生・前期・後期博士過程生とも希望者全員の就職先が決まりました。なお、社会人博士課程には現在6名がおりますが、学部から上がってきた学生は1名という状況です。

久しぶりに電気主任技術者認定立ち入り審査があり、過去昭和31年からの講義科目や設備の認定状況が確かめられました。昔の履修要項は手書き印刷になっており、この審査を通じて当時の科目や一時学科に25名もおられた先生方のお名前を懐かしく思い出すことが出来ました。最近の学生さん達は、総じて物事をハキハキと言えり、明るい希望に満ちた生き方をしているように感じ喜ばしいことです。欲を言えば、自分でテーマを見出すぐらいに、もう少し研究面で積極性が欲しいものだと感じます。

さて、本当は電気工学科にとってもっと大事な憂うべき内部事情も書きたいところですが、それは編集子に止められそうなので、このあたりで皆様の益々のご発展を祈りつつ、筆を置くことにします。

（工学研究科教授・電気工学科主任教授）

いたのですが、2次試験も合格し、6月から天六の近くの普北小学校を仮校舎として授業が始まりました。教室では昭和五年生まれ16歳の私は最年少、最年長は元陸軍大尉殿、多分25歳ぐらい、その他元海軍兵学校、陸軍士官学校ほか錚々たる人ばかり、皆年上、秋には引越し、夕陽丘の小学校、実験室も何もない、このようなお粗末な状態でも、大手前会館で文化祭、西宮球場での、六工専野球大会では優勝、結構楽しく過ごしました。

3年生の頃には、新制大学への昇格問題が持ち上がり街頭での署名運動、嘆願書に署名血判をするやら色々ありました。そして昭和24年3月私たちのクラスは36名卒業しました。インフレと不況で就職難の時代でしたが、住友電工、三菱電機、帝人、関電等大企業へ就職した人もあり、当時としては良かったのではないのでしょうか、その後3名の人が工学博士を取得され、アメリカのベル研究所へ招かれた人、関大名誉教授等多士済々、現在生存者28名残存率78%。今年のみやこ会（クラス会）もアメリカ・東京・横浜からの参加もあり13名出席、平均年齢79歳最高81歳、盛会裏に終わり、来年の再会を約して解散しました。

（電気（旧都島工専）・昭和24年卒）



卒業58年クラス会

竹内 正臣



昭和21年4月中旬、戦後初めての春、桜が満開の日でした、都島工専入試1次が行われました。確か各科の定員は40名だったと記憶していますが、それに対して受験者が大変多く、戦争のため旧制中学の授業が3年生1学期までしかなかった私は、到底これは駄目だとあきらめて

鉄道会社に就職して10年

三重 和宣



同窓会だよりへの執筆依頼を受けて、思い返してみれば、卒業してからもう10年も経っていることに驚きを感じます。卒業後、私は鉄道会社に就職し、当時自動改札のなかった鶴橋駅で出改札業務を経験することから社会人生活が始まりました。これまでの電車を利用する立場か

ら、多くのお客様の生活の一部を担っていることを実感し、身が引き締まったことを思い出されます。

それから10年。現在は、鉄道の安全や定時性を支える信号保安に関する業務を担当しており、列車が速度を超過したときに自動的にブレーキを作動させるシステム(ATS:自動列車停止装置)の改良設計や平成21年の春に予定されている阪神電鉄との相互直通運転に関する業務などを主に担当しております。特に輸送の最大の使命である安全を保障するATSに関しては、実務担当のとりまとめを行っており、責任とともにやりがいを感じています。当社では来年から、一部区間から順に、より保安度の高い新型ATSの運用を開始します。

ところで、市大の電気工学科出身で鉄道会社に入社された諸先輩方とビール片手に情報交換をする会が昨年からはまりました。もちろん業界に関する情報交換もするのですが、皆様の大学時代の研究室や所属サークルの話など、学生時代を過ごした年代が異なっても、通じる話も多く、楽しく賑やかに開催しております。

最後に私事ですが、この原稿を書く数日前に娘が誕生しました。卒業後、あっという間に感じた10年間だったのですが、これからの10年は、今はまだ首のすわっていない娘の成長をゆっくりと眺めながら過ごしていきたいと思っています。

(電気・平成9年卒・近畿日本鉄道(株)企画統括部)

応用化学科

応用化学科の近況

畠中 康夫



卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平成16年度4月より大阪市立大学に赴任し教務委員、教務委員長を務め、4年目の今年、応用化学科の主任を仰せつかりました。この間に携わった教務関係の事項や学科全体にかかわる業務を通して、応用化学科が転機にさしかかっていることを肌で感じてきました。

ました。

さて、応用化学科の近況をご報告させていただきます。現在、無機工業化学(小槻、澤井、有吉)、有機工業化学(畠中、南)、高分子化学(圓藤)、工業物理化学(米澤、辻、米谷)、材料化学(松本、小島)の11名で研究・教育を進めています。しかし、大阪市の財政悪化にともなう、20%定員削減、新規採用凍結、学科再編など次々と応用化学科の教育・研究の根本にかかわる変革の波が押し寄せてきています。

今年度の学部卒業予定者28名のうち、本学大学院への進学者は18名でした。また、他大学からの受験生も多く、大学院入学試験は近年にない難関でした。このような外部との人的な交流が良い刺激になると期待しています。一方、後期博士課程については進学者が少なく、社会人ドクターの入学に期待しています。

今年の就職に関しては、好景気が続いていることから、大手化学メーカーをはじめとする多くの企業から人事担当者やOBが訪れ優秀な学生の確保にむけて熱心な就職勧誘が行われています。中規模の企業でも研究に熱心な会社もあり、化学が好きな学生には向いていると思うのですが、大企業志望の学生が多いようです。

本学にとって非常に厳しい環境の中で、卒業生の皆様方が築いてこられた優れた教育、優れた研究の伝統をこれからも教員一同で守っていく所存です。卒業生の皆様には、今後とも暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(工学研究科教授・化学生物系専攻長兼応用化学科主任教授)

第3の人生、驀進中

三刀 基郷



同窓生の皆様、お元気で活躍のことと存じます。私も元気で第3の人生真最中です。学部で5年、大学院で5年、オーバードクターで2年、あわせて12年間大阪市立大学で育ちました。12年間といえば、小学校入学から高校卒業までの期間ですが、怠惰の報い、重ねた馬齢を悔い

る年齢になってきました。

大学を離れて27年間、大阪府のお世話になりました。現大阪府立産業技術総合研究所が第1の人生です。第2の人生は、平成11年から4年間、科学技術振興機構の事業で、大阪に研究開発拠点を構築する「地域研究開発促進拠点支援(RSP)事業」の産学連携コーディネーターとして、大学の基礎的研究成果を育成して実用化につなげる活動に携わってきました。大阪府への恩返しができました。

平成15年、大阪市立大学に「新産業創生研究センター」が設置されたのを機に、母校に帰ってきました。「新産業創生研究センター」?、そんなん初めて耳にするので、という方、大学ホームページで見つけて下さい。当センターでは、受託研究・共同研究・技術相談などの窓口、国などの助成金獲得のためのプロジェクト編成、先生方の発明の特許化の支援、先生方の研究成果により起業あるいは第2創業を目指す企業の支援などを行っています。私は現在、コーディネーションと知財を担当しています。

私のコーディネーター歴も9年目、中学卒業の年になります。青春真最中、第3の人生驀進中です。

(応化:昭和39年卒・44年博士課程修了・大阪市立大学新産業創生研究センター産学連携プロデューサー)



異端者の近況

藤澤 一夫



私は67年に和光純薬に入社しましたが、応化の卒業生としては異端とも言える道を歩きました。入社後2年半にしてパリ事務所に赴任。以来、技術畑に戻ることなく一貫して海外業務に携わり、欧州勤務は三度を数えました。滞在期間はパリに1年とデュッセルドルフに通算18

年。最後の勤務を終えて帰国したのは05年10月でした。

ドイツ時代の思い出が相変わらず脳裏を行き交う中で、最近富みに気になるのは、個性を失いつつある日本の風景です。町に溢れる電線・電柱、看板、自動販売機の類いはもとより、国籍不明の住宅や、欧州の街を模したテーマパークなどが私には異質。自国のアイデンティティを尊ぶ欧州の国々

に比べて、なぜ私たちは惜しげもなく日本らしさを捨てようとするのか、と一人で残念がっています。

それだけに、日本の伝統文化を守ろうとするひたむきな努力には惹かれます。例えば、奈良女子大学構内にある「佐保会館」。美しい木造の同窓会館です。放っておけば取り壊される運命にあったかも知れない明治期の見事な建造物は、卒業生や企業の寄付によって大掛かりな修復工事を終えて甦り、登録有形文化財に指定されました。実は、光栄なことに、私は去る9月、その由緒ある会館内の「生駒ホール」で、「私が見たドイツ - 注目される都市景観 -」と題して講演をさせていただきました。ドイツ各地の風景を概観しながら、景観にこだわる人々の工夫と心配りについて話させていただいたのです。

(応化・昭和40年卒・同42年修士修了・元和光純薬工業(株)ドイツ法人社長)

建築学科

建築学科の近況

横山 俊祐



活気を呈していると言われながらも建築を取り巻く状況は厳しさを増すこの頃ですが、卒業生の皆様には、ますますお元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。どういう巡り合わせか、昨年度に続き学科主任を担当しています。

冒頭より恐縮ですが、この一年は、暗い話題ばかりです。1月には、構造力学分野の那谷晴一郎先生が逝去されました。研究室には、完全に手作りの緻密な制振実験装置が残されています。ひたむきながら研究に賭ける熱き姿勢が偲ばれます。また、3月には気鋭の建築史家である中谷礼仁先生が母校早稲田大学に異動されました。さらに追い討ちをかけるように、今年度末には、本学科の中核的存在である坂壽一、杉山茂一両先生が揃って定年を迎えられます。本学科の特色であり評価を高めている少人数教育が、「少人数に対する教育」から、「少人数による教育」へと変質しかけています。教員数の削減にともなう学科再編の取り組みが本格化するなかで、弱体化する組織をいかに立て直すかが大きな課題です。

こうした状況のなかで元気づけられるのは、やはり学生の活躍です。卒業生の皆様の熱心なリクルート活動のお陰で、すでに学部・大学院ともに、全員が建築関係に就職内定をいただいています。また、研究面では優秀卒業論文賞受賞(日本建築学会)や石崎賞受賞(認知症ケア学会)、設計コンペでの入選など、小規模の学科ながらも、晴舞台上で登場するようになってきました。伝統的な「真面目で堅実」な気質に、「チャレンジングでアクティブ」な気運が加味されてきたように感じます。

来年の会報では、皆様に数々の明るい話題を提供できるよう、努めて参ります。今後ともご支援のほど、よろしくお願

い申し上げます。

(工学研究科教授・建築学科主任教授)

建築三期生だより

中東 達男



学部卒業は1955年。52年経過し全16名のうち物故者2人・要介護2人で、生存率87.5%、健全率75%です。残12名は殆ど退職しましたが、現役で活躍している者も2人、結構健康で長寿と言えるのではないのでしょうか。

一同が一堂に会する機会は最近ではここ10年間で12回ありました。殆どがJ R等の企画に乗って、集まれるものだけ参加する気楽な形です。例えば出石で蕎麦を打って食べる会に参加し、後は街を散策して帰途につく。或は、湖北で鮎を食べる会に参加、天然鮎の塩焼きを堪能した後に長浜の街を散策する・・・等です。2005年には馬籠・妻籠を訪れ恵那温泉に一泊、翌日愛知博を見学しました。参加者10名で健康なもの殆どが参加、翌日まで粘った健脚の猛者もいました。海外にも2度、1993年に返還前の香港・1996年にはタイのチェンマイ・バンコクを訪れました。参加者はそれぞれ9名及び7名で、何れも思い出深い旅になりました。

最新では、今年に入って2月20日、新しくオープンした国立国際美術館「夢の美術館展」に、入場券6枚手に入ったとの喜多君からの電話連絡で、手を上げた早いもの順で集まりました。展示は主に印象派以降の近代作家の作品で、名画鑑賞と言うより近代・現代芸術の理解に努めるのが精一杯で、皆大疲れでした。この美術館はピカピカのオブジェのような入り口以外、展示室は勿論収納庫も地下。辺りはその昔高潮で水害のあった地帯。水害対策を聞いてみましたが潮位記録によると水没の恐れなく特に考慮は無いとのこと(怖)。

昼食後土佐堀川は筑前橋上で、同じシーザー・ペリ氏設計のピカピカの中の鳥三井ビルを眺めながら帰途につきました。
(建築・昭和30年卒)



近況報告

小西 貴裕



修士課程を修了してはや6年、時が経つのは早いですね。昨年30歳を迎えましたが、まさにその誕生日にギックリ腰で1週間会社を休みました。あの痛みはありえない…(ToT)。卒業生の皆様は、いかがお過ごしでしょうか。

現在、私はIT・情報産業に携わって

おります。建築とは全く違う世界。何もかも新しい事ばかり。最初は技術書を読み漁りひたすらプログラミング。それもなかなか大変でしたが技術だけでもダメです。企業を支援し、システムに価値を見出す、これを顧客に説明して納得してもらうことこそが、本当のお仕事です。

大抵の顧客は、課題とアイデアのイメージをどちらも持たれています。でも簡単には教えてもらえません。開発ベンダーの技量を見極めようとされるからです。ですから、要件ヒアリングやシステム提案では、顧客担当との打合せで交わす言葉、特に業界知識や業務フローに精通していることが必要です。そのために私は、ひた向きに顧客企業の日線で考え続けることをビジネススタイルとして貫いております。幸いにも、私が所属する事業部は住設業界の顧客が多く、建築を学んできたことは無駄ではありませんでした。むしろ良かった点の方が多いです。仕事の幅を徐々に広げ、今では開発リーダー、営業支援、企画提案まで任されるようになりました。まだまだひよっこなので、専門性の高いITエンジニアを目指し、これからも頑張っていきます。

最後になりますが、今年は建築会名簿CD-ROM発刊の年です。今回も製作のお手伝いをしておりますので、是非ご覧下さい(◡◡)ノ

(建築・平成11年卒・14年前期博士課程修了・応用技術(株))

都市基盤工学科

都市基盤工学科の近況

大内 一



卒業生の皆さんお元気で活躍のことと存じます。といっても、私自身は昨年3月までこの「同窓会だより」を受取る立場だったので、人生の彩を感じています。本年4月より学科主任を任せられ、見よう見まねで務めております。どうぞ、よろしく願い申し上げます。

工学研究科／工学部としての最大の懸案はH21年度の学科再編です。その関係もあり、当学科からは、北田俊行教授が都市系専攻長、大内が都市基盤工学科主任として臨んでおります。当学科としての課題は、現環境都市工学科と合体する新「都市学科」素案作成です。種々解決すべき問題を抱えていますが、重厚長大型からサステイナブルデベロPMENT型に移行する時代にあり、全体としては良い方向ではないかとも考えております。

教員の移動ですが、吉田長裕講師が本年1月からの英国留学を終え10月に帰国されました。転入転出はありません。

学生の進路はOBの皆さまのご尽力もあり、順調に決定しています。4回生内定状況ですが、進学は他大学への4名を

含め14名、公務員5名、民間10名(うち建設関係3名)、未定1名です。本学科関連の都市系専攻前期博士課程修了予定者の内定状況ですが、公務員1名、民間12名(うち建設関係7名)、未定3名です。他大学大学院への進学増加と他産業への就職増加が強まっています。

学部生1学年定員数は28名で一時から比べると随分少なくなっていますが、その分きめの細かい指導が出来ているのではと存じます。すぐに芽は出なくとも人の繋がりには財産です。学生・教員・OBの縦横の繋がりを、日常の教育や研究活動、さらにはオープンキャンパスやシビルの日、土木会主催行事などを通じて深めて行きたいと考えております。どうぞ、今後ともご支援ご協力頂きますようお願い申し上げます。皆さまの益々のご発展を祈念しつつ。

(工学研究科教授・都市基盤工学科主任教授)



雑 感

高井 広行



広島大学（近畿大学工学部建築学科）で教鞭をとって来年で30年経過する。大阪で暮らし、大阪で育った28年間より長い年月をこの地で迎えている。住めば都というように広島が私のふるさとなりつつある。私の専門は交通計画、都市計画、防災計画等の「安心・安全なまちづくり」を中心としたものである。今までにも多くの町の計画に携わってきた。その中でも神戸市の消防計画に関しては長年関与してきた。その途中において「阪神淡路大震災」を経験した。2日後に10tトラックで物資を積み込み数名で駆けつけ、1週間消防局で寝泊りし、災害の恐ろしさを実感した。その後、審議会や委員会出席のため広島から半年間神戸を行き来し、各種の計画作りに参加した。今でも鮮明に記憶している。現在、広島市を中心に東広島市、三次市、三原市、廿日市市等の行政や会議所の審議会をはじめ各種委員会に参加し、まちづくり活動を行なっている。

私の所属している私立大学は少子化の影響を大きく受け、定員割れの大学が大半を占めるようになった。とくに、工学系への影響は大きい。幸いなことにわが大学は定員を上回る生徒が入学している。しかし、教育の傍ら高校訪問、地方における保護者懇談会・進学説明会、オープンキャンパス・見学会、地域貢献イベント（コンサート・花フェスタ・サイエンスフェスタ・公開講座・出張講義他）等多忙な毎日をごしている。また、建築学科は人気があり、今年の入学倍率は約1.5倍である。2007年10月には昨年の生物工学科、機械工学科についてJ A B E Eの審査を受けた。また、国際化に対応するようにエジンバラ大学、タマサート大学間で長期（1年間）、短期（数週間）の交換留学プログラムを実施しており、エジンバラ大学とは今年で7回目を迎える。このように、教育改革、産学官連携、地域貢献、国際交流等多くのメニューを毎年消化している。

先日、土木学会全国大会（於広島大学）の開催時に久しぶりに広島ガーデンパレスにて土木会の同窓会を開催、37名の方々の参加を得た。懐かしい先生・学生さん達との懇話に花を咲かせた。来年も是非開催を期待したい。しかし、年をと

るにつれ教員の顔ぶれも代わっていき、寂しい感がぬぐえない。このような同窓会にも是非多くの方々特にOBの方々にも是非参加していただきたいと思います。

（土木・昭和47年卒・近畿大学工学部建築学科教授）

大和川6k右岸

里村 真吾



平成11年に学部を卒業するまで、ずっと大阪で暮らしてきました。就職してからは、九州や東京で土木を中心に様々なことに携わらせていただきました。昨年7月に約7年ぶりに大阪へ帰ってきて、しかも大和川で仕事をしています。仕事で地図を開くと必ず大和川6k右岸地点の市大が目に入り、少し照れるような気持ちになっていましたが、今ではすっかり慣れました。

大阪を離れていた頃感じたことは、いかに大阪や近畿が歴史・文化の宝庫であるかということです。学生時代は土木の道を選びながらも、特にその“土地”を意識せず、近畿の素晴らしさに気付かず暮らしていました。今思えば、自由な時間がたっぷりあった学生時代になぜもっといろいろなところに出かけなかったのかと悔やまれます。それを取り戻すためというわけではありませんが、昨年以降、なるべくいろいろなところへ行くよう心がけています。いつ、転勤を命ぜられても大丈夫のように……。博物館、寺社、古墳はもちろん、生駒山、動物園、新世界など、訪れるたびに“発見”があり、改めて自分の無知を認識しています。

東京で働いていた頃にも数名の同窓生と一緒に仕事をしましたが、大阪に戻ってきてからは思いもかけない形で同級生と共に仕事をするようになりました。実はけっこう頻繁に2人で同期会をやっています。ここでも、学生時代には知らなかった一面を“発見”し、あらためて学生時代の友人っていいなど実感しています。

卒業して8回目の冬を迎えます。そろそろ同期みんなで集まって、それぞれの活躍話をお聞きしたいと思っています。みんなで杉本町に集まって、一緒に“発見”してみませんか？
（土木・平成11年卒・国土交通省）

応用物理学科

応用物理学科の近況

中山 正昭



卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

地球的には気候変動と文明・宗教衝突が、国内的には政治の不安定性と社会制度の脆弱性が大きな問題となっておりますが、応用物理学科では、教員と学生が力を合わせて教育・研究に頑張っており

ます。小職はしばしば研究のために教授室に泊まりますが、いつの時でも学科のフロアは、熱心に実験をする学生達で不夜城のように明かりが灯っています。研究に関しては、世界的な水準を維持していると自負しております。その現れとして、大学院志望者が多く、今年度は22名が前期博士課程に入学しました。

学生の就職に関しては、本学科の教育・研究が高く評価されて、学部と大学院ともに、今年度の就職希望者は全て内定しており、そのほとんどが一部上場企業です。

教員の近況としては、本年3月末をもって、光物性工学研

究室の溝口幸司助教授が、大阪府立大学理学部物理学科教授への栄転のために退職されました。また、数理工学研究室の中村勝弘教授が、今年度末で定年退職されます。

独立行政法人化後の大学は、大阪市の財政赤字が大きく影響し、残念ながら厳しい運営状況となっています。そのために教員定数削減が行われており、結果として、工学部の学科再編が余儀なきものとなりました。具体的には、応用物理学科の全研究室と電気工学科の2研究室が融合して、平成21年4月から電子・物理工学科が発足します。「応用物理学」という学科名への愛着には尽きないものがありますが、新学科体制でのより良い方向性を現在検討しております。

最後に、卒業生の皆様のご健勝と益々のご発展を心からお祈りしますと共に、暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(工学研究科教授・応用物理学科主任教授)

還暦、定年、そして現役

野田 忠男



卒業して37年、私達のクラスは一昨年からは還暦を迎え、今年はいわゆる現役組が全員還暦を迎える節目の年となりました。4回生の時は大学紛争が激しい中で、授業は勿論卒業式も出来ない状況だった事を思い出します。万博も開かれた時であり、大阪が沸いているような時代でもありました。

代でもありました。

クラス約30名全員が電気系を始め多くの分野に就職、そしてバブル期を乗り切り、団塊の世代の構成員としてそれぞれ役目を全うしました。今年で大多数が定年を迎える事になりますが、既に早期退職で次の目標を見つけ、新しく活動を開始した仲間もおります。

同期会は卒業以来ほぼ年に一度は開いていましたが、15年ほど前から毎年11月に定例的に集まる事を取り決めています。その頃から入学時の担当教官であった大倉先生が、私達の同期会に出席して下さる様になりました。その時は最近のトピックスを30分程度お話し頂くのが恒例となり、毎回レジュメを配って頂き、さながら講義のような雰囲気です。聞き入った思い出があります。



卒業してかなりの時間が過ぎたにもかかわらず在阪者を中心に毎回10名以上の出席者で、今も学生当時同様盛り上がり

ています。去年からはゴルフ、釣、飲み歩き等各自を束縛しない自由行動な旅行も企画し、今年で2年目。夜には還暦後の現役を目指して37年の経験をどのように活かすかを主題に話し合う機運が芽生えてきました。大学入学時の初心に戻り、そして紛争時のクラス討論の熱気を再現し、青臭くかつ老練な議論の末、世の中に貢献出来る何かを見つけ出せる事を期待して。

(応物・昭和45年卒)

近況報告

山野 邦子

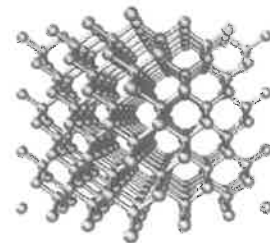


卒業してから、早いものでかなりの年月が経過しておりますが、卒業後は大学を訪問する機会がなく、同窓会だより等で大学も変わっていると聞きますので、何かの機会に一度足を運んでみたいと思っております。

卒業後は、機械メーカーに就職し、数年間はプロセス技術の開発業務に従事しておりました。その後、技術営業ということで東京への転勤の打診がありました。転勤については自分でも予想外のことであり、加えて技術開発から営業へと業務内容も大きく変わるためどうすべきか悩みましたが、一度今までやったことのない仕事を経験する良い機会を得たと考えて、受け入れることにしました。営業に移ったばかりの頃は、何をしたら良いのか、また顧客ともどのように関係を築いたらよいか分からず戸惑いました。しかし、周りの人の協力もあり、顧客とも何度もお会いして話をさせて頂く中で信頼関係を築くことができ、一緒にお仕事をさせて頂くことができるまでになりました。このことは非常に嬉しかったこと言うまでもありませんが、それと共に新しいことにも前向きに取り組めば何とかやり遂げることができるという自信を少し持てるようになったことは自分にとっても大きな転機になったと思います。

その後、弁理士資格を取得したこともあり、現在の会社に転職して知的財産関係の業務に励んでおります。卒業当時は技術者として働きたいと思っており、転職など全く考えていませんでしたが、いろいろな経験をする中で、考え方や物事の捉え方に変化があったものと思います。最後になりましたが、皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(応物・平成7年卒・シャープ(株))



情報工学科の近況

原 晋介



ほとんどの卒業生の皆さんには初めてお目にかかります、本年度学科主任を仰せつかっております、原晋介です。私は本学に赴任してやっと2年が経過した新米教授です。本学の勝手がまったくわからないので、教室の皆さんには大変な迷惑をお掛けしておりますが、暖かいご支援でなんとかここまでやってきております。この紙面をお借りし、情報工学科の近況を簡単に報告いたします。

教員の異動はありませんが、本年4月より、濱裕光教授が工学研究科長を務められております。工学部では、平成21年度からの学科再編に向け、本年度からその議論が本格化しております。濱先生はその実現に心血を注いでおられますが、想像を絶する心労があることと思います。体にお気を付け下さることを願います。

本年度の学部新生は27名でした。4月には、これら新生、上級生ボランティアと教員で1泊の導入研修を行っております。学部4年生は24名で、そのうち5名が就職、19名が本学の大学院に進学しております。大学院前期課程を修了した学生は14名で、そのうち11名が就職、1名が本学の大学院後期課程に進学しております。また、大学院後期課程を修了した学生は1名でした。

全国的に工学部の人気さが下がり、「情報」が名前に付く学科の人気も下がっております。しかし、本学の情報工学科の人気は高く、学部入試の競争率は5.6倍でした。競争率が高いだけあり、情報工学科の学生さんは非常に優秀であるというのが私のここに来てからの実感です。

卒業生の皆さんが社会で活躍していることを見聞きするの

は、教員と学生にとって大きな励みと刺激になります。皆さんの益々のご活躍を祈っております。

(工学研究科教授・電子情報系専攻長兼情報工学科主任教授)

近況報告

新保 大介



皆様、おひさしぶりです。私は大学卒業後、院に進学し、今年の3月に前期博士課程を修了しました。現在、社会人一年生として奮闘しています。仕事内容は、地上デジタルテレビ放送の受信技術の研究開発です。大学時代から興味があった分野なので、毎日大変ですが楽しみながら仕事に取り組んでいます。まだ大学院を卒業して間もないということもあり、よく学生時代を思い出すことがあります。大学生生活を振り返ると、研究室に配属されてから自分が大きく成長したように思います。研究で行き詰ったときに、自分で考え自分なりに出した答えを先生や研究室のメンバーに説明し、一緒に議論をしてもらい、という経験を多くしてきました。この経験が会社生活で非常に役に立っています。自分一人だけで悩むだけでなく、周りの人達の力を借りることでよりよい成果を生み出すことが大切だと感じています。

さて、同期生の皆さんは2001年度情報工学科入学同期生のメールアドレスがあるのはご存知でしょうか？もし、御存じないのであれば、ぜひこの機会にこちらのメールアドレス(a01t6xx@yahoo.co.jp)に御連絡下さい。数年後に同期会を開く際、利用したいと思っています。メールアドレスの管理は同窓会委員の山本、新保で行っています。同期のみんなが集まるのを楽しみにしています。

(情報：平成17年卒・19年前期博士課程修了・三菱電機(株))

バイオ工学科

バイオ工学科の近況

井上 英夫



バイオ工学科(旧・生物応用化学科)の近況について簡単にご報告いたします。ここ数年、教授の定年退職などがあり、また教員の昇任や帰任、各分野の名称変更もあって、現在当学科は以下のような教育・研究体制になっております。

| 分野名 | 教授 | 准教授・講師* | 助教 |
|--------|-------|-------------|-------|
| 生物分子工学 | 井上 英夫 | 笠井 佐夫、北村 昌也 | |
| 生物化学工学 | 大嶋 寛 | | 五十嵐幸一 |
| 生体機能工学 | 長崎 健 | 東 秀紀* | |
| 生体材料工学 | 田辺 利住 | 立花 亮 | |
| 細胞工学 | 東 雅之 | 立花 太郎 | |

バイオ工学科では、知識だけを得るのではなく、いろいろな能力が身につけられるようにユニークな科目群を設けています。例えば、バイオ工学演習Ⅰでは1回生が研究室を訪問

し、教員や学生・院生を取材して、内容をポスターなどにまとめ上げています。また、3回生時には英語論文紹介を行っております。学生一人一人が英語論文を読んで、その内容をパワーポイントにまとめ、スライドショーにより発表するというものです。学生さんは非常に上手にプレゼンテーションしており感心させられます。一方、同様な科目として1回生時に研修合宿があります。この合宿では早い時期に学生が勉学などの目標を設定できるように指導を行っており、またこの集いを通して教員と学生の親睦が深まっています。今年では三名の卒業生を講師として招き、学生にとって大変有益なお話をいただきました。

このような教育・研究体制のもと、私たち教員はここを新たに努力していく所存です。卒業生の皆様には、今後ともバイオ工学科への応援をよろしくお願い申し上げます。最後になりましたが皆様のご健勝とますますのご活躍を祈念いたします。

(工学研究科教授・バイオ工学科主任教授)

1年半

北村 僚子



お久しぶりです。皆様、いかがお過ごしですか？大学院を卒業してから早1年半がたちました。私は現在、新規開発された薬を分析する仕事をしています。研究室で3年間愛用した酵母・培地・白金耳からLC/MS/MSに転身、分析機器を扱うのは初めてで戸惑うことも沢山ありましたが、先輩方の丁寧なご指導の下、なんとか使いこなせるようになりました。そして次はGC/MSに挑戦します。私が所属している部署で初めて行う分析方法なので、これまでのように手取り足取り教えてもらうことはできません。講習会へ参加するなど自分から積極的に学び、分析方法を確立しているところです。就職活動ををはじめた頃は企業＝メーカーというイメージが強く、自分も何か“モノ”を作る仕事をするのだと漠然と思っていましたが、実際にやっているこ

とは“モノ”作りではありません。会社の商品は『分析結果』という形のない“モノ”ですが、開発薬剤の分析という直接人の命に関わる責任あるデータを出す仕事にとってもやりがいを感じています。

また、卒業後も相変わらず吹奏楽活動を続けています。中学、高校、大学と続けた吹奏楽、気がつけば今年でなんと14年目です。社会人になって念願のマイ楽器（ファゴット）を購入し、現在地元の吹奏楽団で活動しております。高校生から60代の方までと年齢層も広く、学生の時とはまた違った楽しさがあります。週1～2回の活動ですが、演奏会本番の緊張感とみんなで一つの音楽を作り上げるという吹奏楽の楽しさを改めて感じています。

卒業してから大阪を離れた方も、私の様に引き続き大阪で生活している方も、それぞれの場所でお互い頑張りましょう！

(生化・平成16年卒・18年工学研究科前博修了・㈱住化分析センター)

知的材料工学科

知的材料工学科の近況

橋本 敏



卒業されましたOB、OGの皆様にはそれぞれの分野でご活躍のこととお喜び申し上げます。今年3月には第五期生の25名が卒業しました。うち5名が企業へ、2名が公務員として就職、17名が大学院に進学、1名が他大学大学院に進学しました。今年の4月には29名新入生が入学しております。学科の教員には移動等はなく、一同教育と研究に勤んでおります。昨年度には学科の教育プログラムが日本技術者教育認定機構（JEBEE）の認定を受けましたが、指摘された項目の改善に対しその中間審査が9月に行われた結果、すべてにクリアして、2006年から5年間の認証を受けることとなります。技術士を目指す卒業生の皆様には朗報です。

材料物性工学分野担当の横川善之教授は第7回アジア・バイオセラミックス・シンポジウム（ABC2007）を市大に誘致し、会議の議長を務められました。人工骨材料の最新の研究成果とその将来が討論され、当分野がアジアの研究プラットフォームとして重要な役割を担われていることを誇りとします。

ロシアの国立トリアッチ大学の理工学部と研究者や学生の学術研究に関する学部間協定を締結いたしました。外国人研究者との交流も盛んで、中国、ロシア、インドやタイなどの研究者の特別講演が行われました。10月からはロシアのサロフ出身の若い研究者が日本政府国費留学生として採択され、材料機能研に在籍しております。このように本学科の研究活動がますます国際的に重要な位置を占めることは大変喜ばしく存じます。橋本とピノグラドフは、大きな単純せん断変形

を受けた銅単結晶に見出された双晶とシアーバンドによりその学術上の価値が認められ、日本金属学会の金属組織写真奨励賞を同志社大学の共同研究者とともに受賞いたしました。最後になりましたが卒業生の皆様のますますのご活躍とご発展を祈念いたします。

(工学研究科教授・機械物理系専攻長兼知的材料工学科主任教授)

近況報告

宮本 直哉



平成18年4月に知的材料工学科に入学して早、1年と半年が過ぎました。2回生になり今年の新入生を見てると不安と期待を膨らませながら大学へ足を運んでいた1年前の自分を思い出します。そして数ヶ月後には大学生活も折り返し地点となります。もう2回生、されどまだ2回生。日々の授業はまだ基礎物理学や解析のような基礎科目がほとんどです。なので、現在知的材料工学科では先輩たちがどのような知識をもとに、具体的には何を研究しているのかが今の私にはまだ理解しきれていません。とにかく今は増えつつある専門科目の授業に励もうと思っています。

2回生にはCAE（データ処理）や、物理学の講義、テストを全て英語で行うという全く予想もしていなかった授業が始まりました。ただ知識を持つだけでなく、研究や、国際化に対応できる能力を身につける機会が色々と組み込まれています。来年からは工学実験も始まるので、実際に目で見て、様々な装置に触れることができるいい体験ができそうです。そこから、自分なりに将来に対する新たな展望が見出せるの

ではないかと期待しています。

また個人的には部活動である語学部や地元の音楽サークルに参加しています。そこでは他大学生や地元との交流の場がたくさんあり、日々を有意義に大切に過ごしています。

最後にこのような発表の場を与えてくださった兼子先生始め、諸先生方に感謝すると共にこれからも自分を成長させていきたいと思います。

(知的材料・平成18年入学・工学部知的材料工学科2年生)

環境都市工学科

卒業生のみなさん お元気ですか！(近況報告)

矢持 進



1999年4月に環境都市工学科が創設され、8年が過ぎました。今年も学科主任を担当し、再び同窓会だよりに拙文を書くことになりました。

来年(2008年)3月には6期生が卒業し、10名が実社会に、また同じく10名が大学院に進学する予定です。1期生が今およそ30歳ですから、そろそろ皆さんは若手のホープとして自分の力を十分に発揮されることと期待しています。環境都市工学科は名前のとおり「環境と都市」に係わる工学的な取り組みを守備範囲としており、そのため環境と都市に関する多様な事柄について皆さんは勉強されたと思います。既存の学科にはない、時代を先取りした新しいテーマについて学習できた反面、履修科目の体系化が充分でなく、不満足な面もあったと教員は少し(いや深く)反省しています。卒業生の皆さんのご意見を踏まえ、建築学科や都市基盤工学科(旧土木工学科)と連携しながらも、環境都市工学科のオリジナリティーを探求したいと考えております。ところで、今年(2007年)は学生(院生)に新しい分野への就職内定がありました。某メーカーの環境部門への内定です。企業も環境に対する取り組みや貢献を無視することはできず、ISO9001や同14001の取得、CSR(環境)報告書の発刊などが求められています。企業の環境戦略がその存続・発展に重要な時代になったのです。そういう意味では、環境都市工学演習などで培ったコミュニケーション能力・企画力・総合力で勝負できる時代がやってきたのではないのでしょうか?21世紀前半は環境と都市の時代と言われており、これからの皆様の活躍が本当に楽しみです。なお、技術士補の資格に関連する日本技術者教育認定機構(JABEE)の環境工学部門の中間審査にこの秋パスしました。取りあえずご報告まで。

(工学研究科教授・環境都市工学科主任教授)

近況報告

二宮 順一



平成18年3月に環境都市工学科を卒業し、都市系専攻環境水域工学研究分野に入学して、現在は修士課程2年として日々研究に励んでおります。

昨年は、大学院の授業に研究にと忙しく過ごしておりました。毎日1つはプレゼンテーションを行い、多いときには一日に3つのプレゼンテーションを抱えている時もありました。その情報収集や調査、資料作成には苦勞しましたが、自分を鍛えるという点で非常に貴重な経験ができたと感じています。その一方で、研究成果の発表機会にも恵まれていました。卒業論文の結果について、計5つの学会やシンポジウムで発表を行い、論文集にも2編掲載されました。自分の研究成果が学外の人に初めて触れられることに多少の不安はありましたが、その成果は社会的に意味を持っていることが実感でき、大きな満足感を得ることができました。大学院では、大きく研究テーマを変えて関西地方におけるヒートアイランドに関することを扱っています。自分自身の生活に近い現象なので、大変興味深く研究してはいますが、大気の運動や熱の伝達といった自然現象の複雑さや先人の方々が得た知見の奥深さを改めて感じています。

最近の話題としましては、大阪府庁技術系土木職として無事に最終合格することができました。いくつかの選択肢はありましたが、環境問題を考えていきたい、同じやるなら大きく貢献していきたいという思いから、作ったものが長く世の中に残り、人々の普段の生活に密接に関連している土木という領域を選択しました。実際、私自身に何ができるのかは長い時間の実務を通して理解していくものかもしれませんが、在学中の今からでも少しずつ考えていきたいと思います。

(環境都市・平成18年卒・工学研究科都市系専攻2年生)

☆学友会による『**大阪市立大学支援募金**』へのご協力をお願いします。!!

問合せ先：大阪市立大学学友会事務局

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 高原記念館内

TEL：06-6605-3420 FAX：06-6605-3423 <http://www.osaka-cu.com/>

事務局年報 (2006・12～2007・11)

2006年(平成18年)

12月： 会報第23号の発送(18日)。市大広報第61号を学外の理事・評議員及び大学院生評議員に配布(22日)。

2007年(平成19年)

1月： 新保・志野両監事の会計監査(18日)。第17期第2回理事会にて第18回評議員会の議案を検討・決定(23日)。

2月： 大阪弥生会館にて第18回評議員会を開催、第17期2年目(2006年度)の経過と収支決算報告、第18期1年目(2007年度)の新理事会役員・事業計画・予算を決定。その後、同窓懇親パーティ2007には約70名が参加(23日)。

3月： '07年度新入生への当学生会・会報・案内と学友会入会要請書の配布を学務係に依頼(8日)。卒業・修了生宛文書と会費納入要請状の配布を各学科に依頼。午前の全学卒業式に続く、午後の工学部大講義室での工学部・工学研究科送別式(学部卒業：278名、前博修了：172名、後博修了：12名)に田守会長、杉本副会長及び理事有志4名が出席(23日)。

4月： 新入生への学友会入会の説明支援(2日)。中之島の国際会議場にて2007年度入学式(5日)。同窓会連絡会第1回運営委員会で、同窓会費の配分、文化交流センター分担金、連絡会費を検討(18日)。新・旧会長・副会長引継ぎ会(25日)。

5月： 市大広報第62号を学外理事・評議員に送付(7日)。同窓会連絡会第2回運営委員会で前回の議題を決定(14日)。第116回市大ボート祭で祝アドバルーンを掲揚(26・27日)。18期1回目の理事会で当年の計画事業の実施、事務局担当理事の交代を検討(29日)。

6月： 第1回理事会報告を発送(11日)。

7月： 会長・副会長会で事務局責任者の選出を検討(12日)。当期第2回理事会で本年度の後博進学者援助枠・支給時期を決定、片山拓二氏(機械・昭和25年卒)のご寄付(1万7千円)の受納確認(26日)。

8月： 工学部学術情報交流センター夏季休館(13～17日)。当期第1回財務委員会で未運用特別基金の運用方法・後博進学者修学援助の財源を検討(25日)。

9月： 後博進学者修学援助の申請4名(10日)。当期第1回広報委員会で会報第23号の発行計画・廣濟堂への印刷・製本・発送一括委託を決定、後博進学者修学援助の書類審査で4名の採択を決定(18日)。19年度修学援助金(2回生1名・1回生4名)を支給(21日)。当期第3回理事会では第6回ホームカミングデー工学部行事として「応用科学科の集いの開催」を決定、財務委員会・広報委員会の報告・提案を了承、第19回評議員会後の第7回キャンパス交流会の日程・講演者の選定スケジュールを検討、有恒会就職相談室の要望を検討(26日)。

10月： 市大広報「CITY X UNIVERSITY」創刊号を発送(10日)。近畿2府4県在住評議員他への第6回ホームカミングデー案内状を発送(10・16日)。会長・名誉会長他に会報第23号原稿の依頼状を発送(11日)。森幹雄氏に表紙絵の寄稿を依頼(19日)。第7回キャンパス交流会の日時・会場・講演者等の案が確定(29日)。

11月： 第6回ホームカミングデーに約30名が参加(3日)。会報23号の初稿を開始(17日)。当期第4回理事会で第7回キャンパス交流会の実施案を承認(29日)。

(1) 第17期第2年度(2006年1月～12月)収支決算報告書

(イ) 経常費収支決算表(円)

| 収 入 | | 支 出 | |
|------|------------|------|------------|
| 終身会費 | 5,537,000 | 会議費 | 193,950 |
| 預金利息 | 1,139 | 行事費 | 478,570 |
| 雑収入 | 5,000 | 会報 | 1,778,918 |
| 前期繰越 | 8,756,773 | 会員名簿 | 178,500 |
| | | 協賛費 | 504,846 |
| | | 渉外費 | 13,671 |
| | | 通信費 | 85,890 |
| | | 事務局費 | 2,428,310 |
| | | 備品費 | 37,800 |
| | | 次期繰越 | 8,589,457 |
| 合 計 | 14,299,912 | 合 計 | 14,299,912 |

(ロ) 借貸対照表(2006年12月末、円)

| 借 方 | | 貸 方 | |
|------|------------|-------|------------|
| 振替口座 | 801,584 | 累計剰余金 | 8,756,773 |
| 普通預金 | 8,584,490 | 当年剰余金 | △167,316 |
| 定期預金 | 47,328,596 | 特別基金 | 55,615,213 |
| 有価証券 | 7,490,000 | | |
| 合 計 | 64,204,670 | 合 計 | 64,204,670 |

(2) 第18期第1年度(2007年度1月～12月)理事会役員

会長：田守芳勝(物38)

副会長：宮本万功(機43)、山田文一郎(化40)、杉本豊三(電44)

理事：副松 晃(機26)、下田隆二(機29)、人見宗男(機31)

南斎征夫(機39)、東 恒雄(機41)、笠上文男(機50)

栗政幸一(電31)、建部 渉(電35)、行藤三男(電36)

南 敏行(電45)、串坂 徹(電55)、村治雅文(電62)

近藤 紘一(化37)、三刀基郷(化39)、五百井正樹(化40)

橋本泰郎(化40)、三浦洋三(化42)、大嶋 寛(化49)

小河一真佐(建26)、都築 周(建29)、溝神宏至朗(建36)

貴志義昭(建41)、坂 壽二(建42)、赤崎弘平(建45)

谷口徹朗(建59)、井上 保(土26)、園田恵一郎(土36)

伊藤和雄(土38)、湊勝比古(土41)、日野泰雄(土50)

大島昭彦(土55)、川上一夫(物35)、島谷宏文(物38)

増岡俊夫(物38)、和倉慎治(物45)、宇佐美照夫(物46)

監事：新保市弘(電35)、志野太一(物40)

(3) 第18期第1年度(2007年1月～12月)事業計画

- ① 会報第23号の12月上旬発行・配布。
- ② 工学部・全市大行事及び事業への協力。
- ③ 会員相互の親睦交流の促進。
- ④ 特別基金の運用と有効活用。
- ⑤ 会員名簿2007年版の発行の可否検討。

(4) 第18期第1年度経常費予算(円)

| 収 入 | | 支 出 | |
|------|------------|------|------------|
| 終身会費 | 5,500,000 | 会議費 | 200,000 |
| 預金利息 | 9,000 | 行事費 | 200,000 |
| 雑収入 | 5,000 | 会報 | 1,800,000 |
| 前期繰越 | 8,589,457 | 会員名簿 | 180,000 |
| | | 協賛費 | 500,000 |
| | | 渉外費 | 50,000 |
| | | 通信費 | 100,000 |
| | | 事務局費 | 2,480,000 |
| | | 備品費 | 250,000 |
| | | 次期繰越 | 8,343,457 |
| 合 計 | 14,103,457 | 合 計 | 14,103,457 |

工学部の電話番号[06-6605-(下記番号)] (2007.10.1現在)

| 機械工学科 | 電気工学科 | 応用化学科 | 建築学科 | 都市基盤工学科 | 応用物理学科 |
|------------|------------|---------------|------------|----------------------|---------------|
| 西村 伸也 2664 | 南 繁行 2760 | 小槻 勉 2693 | 谷池 義人 2764 | 大内 一 2173 | 中山 正昭 2739 |
| 伊與田浩志 2963 | 武智 誠次 2677 | 澤井圭二郎 2694 | 谷口 哲郎 2707 | 角掛 久雄 2723 | 金 大貴 3087 |
| 加藤 健司 2665 | 會田 田人 2678 | 有吉 欽吾 2791 | 木内 龍彦 2706 | 北田 俊行 2734 | 中山 弘 3088 |
| 脇本 辰郎 2965 | 高橋 秀也 2679 | 島中 康夫 2979 | 坂 壽二 2708 | 山口 隆司 2765 | 福田 常男 2738 |
| 川合 忠雄 2667 | 重田 和夫 2761 | 南 達哉 2980 | 谷口与史也 2709 | 松村 政秀 2735 | 細田 誠 2742 |
| 杉山 博之 2662 | 草開 稔 2681 | 圓藤紀代司 2697 | 梅宮 典子 2710 | 東田 淳 2725 | 菜嶋 茂喜 3089 |
| 佐藤 嘉洋 2670 | 田中 健司 2975 | 米澤 義朗 2770 | 大倉 良司 2711 | 大島 昭彦 2996 | 熊谷 寛 2879 |
| 川上 洋司 2668 | 向井 孝彰 2792 | 辻 孝一 3080 | 杉山 茂一 2176 | 日野 泰雄 2730 | 小林 中 3030 |
| 脇坂 知行 2671 | 宮崎 大介 2877 | 米谷 紀嗣 2984 | 藤本 益美 2989 | 内田 敬 3099 | 中村 勝弘 2768 |
| 龍山 武 2672 | 辻本 浩章 2685 | 松本 章一 2981 | 徳尾野 徹 2713 | 吉田 長裕 2731 | 寺井 章 2748 |
| 高田 洋吾 2970 | 村治 雅文 2976 | 小島 誠也 2797 | 榎山 俊祐 2199 | 角野 昇八 3078 | 杉田 歩 2904 |
| | | | | 鬼頭 宏明 3050 | |
| | | | | 小田 一紀 2197 (特任教授) | |
| 情報工学科 | バイオ工学科 | 知的材料工学科 | 環境都市工学科 | 共通 | 事務室等 |
| 濱 裕光 2772 | 井上 英夫 2782 | 澤田 吉裕 2660 | 赤崎 弘平 2717 | 多羅間茂雄 2669 | 教務担当 2653 |
| 柳原 圭雄 2773 | 笠井 佐夫 2783 | 逢坂 勝彦 2962 | 嘉名 光市 2715 | 鈴木 広隆 2712 | 庶務担当 2651 |
| 鳥生 隆 2684 | 北村 昌也 3091 | 高坂 達郎 2182 | 姥浦 道生 2716 | 吉岡 真弥 2967 | 学情サブセンター 2657 |
| 平井 誠 2683 | 大嶋 寛 2700 | 元木 信弥 2661 | 中尾 正喜 2993 | | |
| 中島 重義 3096 | 五十嵐幸一 2699 | 山崎 友裕 2181 | 西岡 真稔 2718 | | |
| 辰巳 昭治 2688 | 長崎 健 2696 | 大島 信生 2961 | 鍋島美奈子 2719 | | |
| 上野 敦志 3081 | 東 秀紀 2168 | 橋本 敏 2673 | 矢持 進 2175 | | |
| 岡 育生 2779 | 田辺 利住 3094 | A.ピノグラドフ 3049 | 重松 孝昌 2732 | | |
| 阿多 信吾 2191 | 立花 亮 2702 | 兼子 佳久 2179 | 森 信人 2733 | | |
| 原 晋介 2795 | 東 雅之 3092 | 横川 善之 2743 | 貫上 佳則 2728 | | |
| 杉山 久佳 2796 | 立花 太郎 2167 | 中村 篤智 2741 | 水谷 聡 2727 | | |
| 辻岡 哲夫 2192 | | 岸田 逸平 2194 | | | |

第19回評議員会のお知らせ

評議員各位には当会の活動に種々ご協力頂き誠に有難うございます。

さて、標記の第19回評議員会を下記の通り開催致します。お繰り合わせの上ご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

日 時：2008年(平成20年)2月16日(土)
午後2時00分～2時50分

会 場：大阪市立大学学術情報総合センター
1階 文化交流室

なお、ご欠席の場合の委任状(後日送付)は、必ず2008年2月9日までにご返送下さい。

編集後記

2007年も地球温暖化の影響と推測される異常気象が一層頻繁に出現したようですが、日本の政界や雇用環境の不安定さのみならず、劣悪な犯罪の日常化が気掛かりです。

さて、母校ではこの1年半余りの間、「公立大学法人大阪市立大学」の6年間の中期目標・計画を達成するための年度計画が進められてきましたが、同窓各位も一度、これらの計画の詳細を母校のホームページでご覧下さい。

本号の表紙絵は、森幹雄氏(建築・昭和48年卒)に再びご登場願いました。他の会員各位も奮ってご投稿下さるよう期待しておりますので、ご協力を宜しく。

なお、裏表紙には、来春2月に開催の「工学部同窓会の集い-第7回キャンパス交流会-」のご案内と、当日の懇親会場として初めて利用する“高原記念館”の正面側の外観写真を掲載しています。これらをご参照の上、是非ご参加下さい。

では、良いお年をお迎え下さい。(B. Y. 生)

編集委員

○山田文一郎(応化：昭和40年卒) 南斎 征夫(機械：昭和39年卒)
大嶋 寛(応化：昭和49年卒) 村治 雅文(電気：昭和62年卒)
谷口 徹朗(建築：昭和59年卒) 大島 昭彦(土木：昭和55年卒)
増岡 俊夫(応物：昭和38年卒) 人見 宗男(機械：昭和31年卒)

(○印：委員長)

“工学部同窓会の集い” —第7回キャンパス交流会—

来春の“工学部同窓会の集い”は第7回キャンパス交流会として下記の通り開催します。

講演会では、富士重工業(株)の前代表取締役社長で現在相談役の竹中恭二氏（機械・昭和44年卒）と、読売テレビ(株)放送技術部長の橘俊男氏（電気・昭和60年卒）のお二人にお願い致しました。

また、懇親会は、新しい高原記念館の学友ホールで初めて開催し、現・旧の恩師の方々にもご臨席頂くようお願いする予定です。同期生や職域での同窓生をお誘い合わせの上、ご出席下さい。特に、ミニ・クラス会や、ミニ・職域同窓会を兼ねての参加も大歓迎です。

記

★日 時：2008年2月16日（土曜日）午後3時00分～午後6時30分

★講演会：時間＝午後3時00分～午後4時50分

会場＝大阪市立大学学術情報総合センター（1階）文化交流室

(1) “放送はどこまでデジタル化できるか？”

～在阪テレビ局の苦悩～〈仮題〉”

読売テレビ放送株式会社 放送技術部長 橘 俊男 氏

(2) “サービスロボットへの期待”

富士重工業株式会社 相談役 竹中 恭二 氏

★懇親会：時間＝午後5時00分～午後6時30分

会場＝高原記念館（1階）学友ホール

会費＝3,000円（当日、会場にて徴収）

【申込方法】 1) 連絡事項：①ご氏名、②学科（専攻）名、③ご卒業（修了）年、
④住所（連絡先）、⑤講演会の出欠、⑥懇親会の出欠

2) 方 法：ハガキ、FAXまたはe-mail

3) 期 日：2008年2月11日（月曜日）

【申 込 先】 大阪市立大学工学部同窓会 事務局

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138、

FAX：06-6605-2769

e-mail：dousoukai@office.eng.osaka-cu.ac.jp



〔学友会事務局（高原記念館入口左側）〕



〔高原記念館学友ホール（入口右側）〕